

(博士前期課程) 化学・環境・生命工学専攻【応用化学コース】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

物質およびその変化に関わる基本的な技術を中心としながらも、環境工学・生命工学に属する技術についても理解し、それらを幅広い課題解決に活用できるよう教育を行う。その中では、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていく。

<求める人物像>

- 専攻および応用化学コース博士前期の教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人
- 物質に関わる知識や技術をさらに高めようとする意欲をもつ人
- 化学・環境・生命工学専攻が包含する幅広い技術を融合的に活用し、人類が今後直面する多方面にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人
- 人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

入学前に学修しておくことが期待される内容

博士前期課程では、学士課程で学修した専門科目の知識を基点として、さらに周辺学術領域にも学修の視野を広げるとともに、専門分野の知識と思考を深める姿勢が求められる。また、指導教員の助言を受けながら主体的に研究課題に取り組み、研究を遂行するとともに、当該する学術分野において研究成果を発信できる能力も求められる。そのためには、応用化学科の学部基幹科目である「無機化学」「物理化学」「有機化学」の知識を定着させておくことが必要である。次に、当該分野における基本的な実験（研究）遂行能力を身に付け、分析技術とデータ解析手法を学んでおくことが必要である。また、学術情報を収集し理解するための科学英語読解能力、当該分野の研究者と意見交換できる英会話能力、研究成果を世界に向けて発信するための英語学術論文作成能力、などの基本的な英語力が必要である。さらに、工学倫理（研究者倫理）を修得し、情報リテラシーを身に付けておくことが望ましい。

学内進学選考

学科試験は課さず、3年次終了時点での成績と面接試問の結果で総合的に評価する。

一般入試

学科試験として「化学英語」「基礎化学」（「無機化学」「物理化学」「有機化学」の3分野から2分野を選択）を課す。英語に関してはこの学科試験以外に、TOEIC 公開テストあるいは TOEIC IP テストの得点も加える（ただし、オンライン受験による点数は受け付けない。大学院試験実施日から遡って3年以内に取得した最高得点）。さらに、書類（調査書、成績証明書、TOEIC 成績）審査と面接試問の結果を合わせて総合的に評価する。

「基礎化学」の試験で選択しなかった分野については、大学院入学までに自修し、3分野とも一度学んだ知識の定着を図る必要がある。

社会人入試

学科試験は課さず、書類（成績証明書、業績書、出願理由書等）審査と面接試問の結果で総合的に評価する。学科試験を課していないので、大学院入学までに基幹科目「無機化学」「物理化学」「有機化学」を自修し、当該科目群のシラバス記載の到達目標をクリアしておくことが必要である。また、英語力を持続・発展させるために、TOEIC 公開テストを受験することが望ましい。

外国人留学生入試

学科試験として「英語」「基礎化学」（「無機化学」「物理化学」「有機化学」の3分野から2分野を選択）を課す。さらに、書類（成績証明書、推薦書他）審査と面接試問の結果で総合的に評価する。「基礎化学」の試験で選択しなかった分野については、大学院入学までに自修し、3分野とも一度学んだ知識の定着を図る必要がある。また、日本語文献の読解と日常会話が可能な日本語能力が必要である。